



三島町立三島中学校

桐の里だより

【教育目標】

心豊かな生徒、自ら学ぶ生徒、たくましい生徒

令和4年7月号 校長 鶴水 達也



将来を考える節目となる立志式

7月8日(金)に三島中学校体育館(施設の関係で今年度は本校で実施)にて立志式を行いました。立志式に向けて、子どもたちはキャリア・パスポート(小・中学校の学びを蓄積したファイル)を中心に、自分の人生を振り返り、自分の将来をしっかりと考えていました。その一環として、4人の2年生は、将来を見据えた「立志の言葉」を考え、今後の抱負とともに発表しました。今の自分、将来の自分をよく考えていると感心しました。**将来に向けて学ぶ意義を子どもたちと確認しながら、一人ひとりが将来の夢を抱き、実現できるよう支援して参ります。**



【立志の言葉】

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 「不撓不屈(ふとうふくつ)」 | (強い志をもち、どんな困難にもくじけない) |
| 「深謀遠慮(しんぼうえんりょ)」 | (深く考え、先まで見通した綿密な計画をたてる) |
| 「磨穿鉄硯(ませんてっけん)」 | (強い意志をもち、達成するまで変えない) |
| 「一視同仁(いっしどうじん)」 | (どんな人でも区別することなく平等に接する) |

式辞

(前略)アフガニスタンで医師として活躍した中村哲さんを知っていますか。中村さんは「命を救いたい」という「志」をもち、そのために医師という「夢」を抱きました。日本で医師として活躍したあと、アフガニスタンの現状を知り、現地に渡ります。「病気はあとで治す。まずは、水で命をつなぐ」と、中村さんは、独学で学び、井戸や用水路の建設にとりかかります。そして、食料が確保され、伝染病が減り、国内に仕事ができ、治安が良くなり、数十万人の難民が戻り、多くの人の命が救われました。これは、中村さんが水で命をつないだ成果です。中村さんの「命を救いたい」という「志」は、医師という「夢」をこえて、百万人の命を救ったのです。その後、悲しいことに、中村さんは、武装した集団に襲われ命を落としました。アフガニスタンの大統領が、日本に帰国する中村さんの棺を担いだそうです。それだけ、アフガニスタンにとって重要な人だったか分かります。現地では、中村さんが亡くなったあとも、「水で命をつなぐ」活動は引き継がれています。中村さんの「志」は「命を救う」ばかりか、人と人をつなぎ、受け継がれているのです。

中村さんは、「命を救いたい」と言う「志」をもち、そのために「夢」が「医師」だったわけです。みなさんも「人の役に立ちたい」から「介護士」になる、「みんなの安全を守りたい」から「警察官」になるなど、「志」と「夢」を、再度、あらためて、考える機会にしてほしいです。そうすると、「夢」がゴールとならず、中村さんのように「志」をもとに、「やりたいこと」は無限となり、豊かな人生をおくれると思います。(後略)

夏の陣！県大会

前号でお知らせしましたように、子どもたちの努力の成果で以下のように県大会に出場します。上位入賞・上位大会を目指せるよう指導して参りますので、応援をお願いいたします。

男子バレーボール部 7月22日(土)・23日(日) いわき市
女子卓球部個人戦 7月22日(土)・23日(日) 白河市

なお、特設駅伝部・合唱部も結成されました。今後の大会や活動に向けて頑張ってお参ります。

PTA教養部講演会、保護者会へのご協力ありがとうございました



立志式の午後にPTA教養部講演会、保護者会等を行いました。当日は暑い中、そしてお忙しい中、ご来校いただき感謝申し上げます。

講演会では、個性心理学研究所認定カウンセラーの川瀬光子さん(白河市)から、「ストレスをためない仲間づくり」と題して講話がありました。**自分と他人の個性を理解したうえで、他者を尊重するコミュニケーション・スキル**、そして、総合的に**前向きに考えるストレス・マネジメント**をご教示いただきました。体育館中、「あるあるなケースの連発」に納得の連続でした。

保護者会全体会では、保護者のみなさまと「①子どもたちの成長している具体的な姿、②子どもたちの「ほめポイント」」を共有させていただきました。また、学校評価として「①学校が楽しい・授業が楽しいが9割をこえていること、②メディアへ接し方が課題であること」を報告し、今の本校の素晴らしさをお伝えしました。

今後とも、保護者・地域のみなさまと、一緒に子どもたちを育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

キャリア教育講演会

～いろいろなことに深い興味をもつこと。人と違うことは当たり前、違いを差別しないこと～

国際移住機関(IOM)駐日代表の望月大平さんの講演会を行いました。福島民報や福島民友でも報道されましたように、6月21日(火)に本校で実施しました。

IOMは世界中の人々が安全に移動できるようにする国際機関で、世界中の困っている人を助けることが仕事であることなど、世界規模の壮大な話を子どもたちは目を輝かせ聴いていました。望月さんの学生時代の話もあり、子どもたちは「**今、学んだことが将来に役に立つ、社会や世界につながっている**」と興味津々でした。

世界で活躍する望月さんにあこがれをもち、**この出会いが子どもたちの将来につながれば、三島町の宝になる**と考えています。南相馬市出身の望月さんの妻順子さんも同行され、子どもたちに声をかけていただきました。

なお、今回は三島町教育委員会を通して、国際貢献大学校(岡山県新見市)の的野秀利さん、公文俊明さんにコーディネートいただき、国際機関の代表者の講演会を行えました。



空瓶・空缶回収の収益を通した学び

5月号でもお伝えしましたが、空瓶・空缶回収(4月23日実施)の収益が合計189,082円となり、年度当初の想定を大きく上回りました。この状況を受けて、子どもたちから生徒会費の予算の組み直しの提案がありました。臨時で生徒会総会を行い、補正予算案が承認されました。まさに、本校が推進しているキャリア教育における、**未来につながる学びを、子どもたちは体感した**と感じました。三島町のみなさまのご協力のおかげでできた学びです。本当に感謝いたします。

なお、次回の回収日は8月20日(土)になります。また、本校生徒昇降口脇に専用ボックスが設置され、缶類のみ常時回収を行っていますので、よろしくお願いいたします。